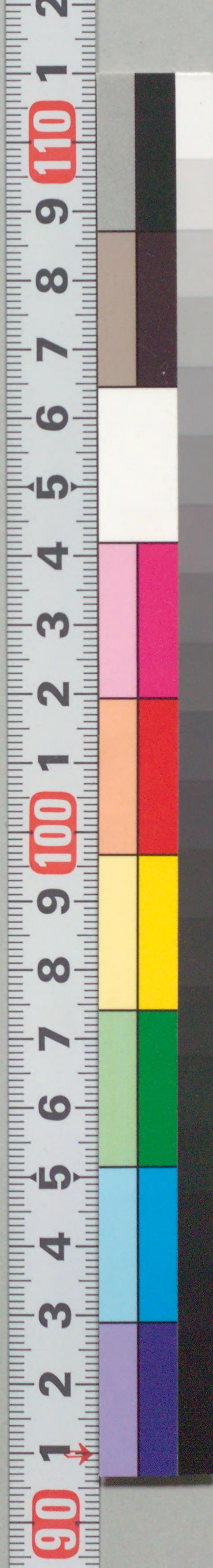
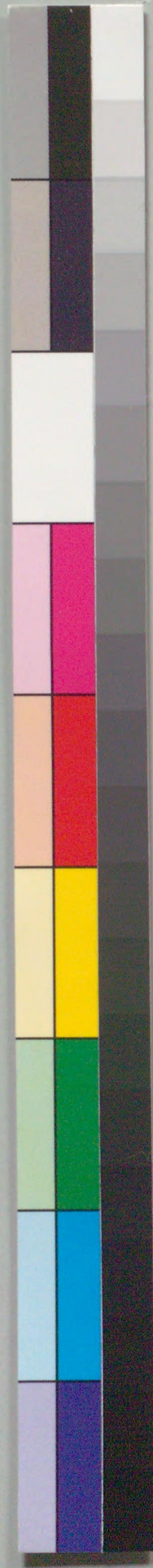


笑門春徳和歌

寶田千所

207
1143







六の歌

大伴 正家
 かられ 櫻
 いささか 春
 ろち 花 多
 ら 大 け
 酒 だ た 後 也
 武 井 下 の
 我 の 心 を
 姉 と 人 々

笑門春徳和歌

全

甲午新刊

宝田千町画

山口屋藤兵版

活馬喰町二丁目

8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190

あまのつゆのきりぎりす
うけて 橋のぬきとて
むい みづのふき
小舟のさうまうとむけて
大アサのまけんとて
むい かりきりまてこれる
あまのつゆのきりぎりす
うけて 橋のぬきとて
むい みづのふき
小舟のさうまうとむけて
大アサのまけんとて
むい かりきりまてこれる



やまべのあひひと
山を赤人
三葉のうらぬ
かたつけ
んん又大か
あまのつゆの
三五大切
猿丸太夫
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの



大舟川とかかけ
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす
あまのつゆのきりぎりす



あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの
あまのつゆの



190 180 170

あやうめとかけく
 若くけいふんとこく
 けいふふたうさ
 あらゆるちとかけ
 みりあふいとく
 けいふふたうさ
 娘のいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ



くらまけとかけ
 らせうのんとこく
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ



きせんらん
 義持法師
 けいふふたうさ
 あらゆるちとかけ
 みりあふいとく
 けいふふたうさ



けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ



けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ



けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ
 けいふふたうさ



190 180 170 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190

あうきのゆちそとけ
ままの出世い
むい めでたくあがは
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん



あうきのゆちそとけ
ままの出世い
むい めでたくあがは
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん



菅家
あうきのゆちそとけ
ままの出世い
むい めでたくあがは
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん



光孝天皇
あうきのゆちそとけ
ままの出世い
むい めでたくあがは
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん



河原大伝
あうきのゆちそとけ
ままの出世い
むい めでたくあがは
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん



大江千里
あうきのゆちそとけ
ままの出世い
むい めでたくあがは
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん
むいひんひんひん



トヨナ

五

五三三がまとうけて
 たまてたことごとく
 ぬいあけてら年一うら
 中てぢぢとあけてる
 ぶつとめとあけてる
 ぬいあけてら年一うら
 きりあむのうん定とあけ
 てあひの山のびとあけ
 ぬいあけてら年一うら
 あんもとうとかけ
 とあけてら年一うら
 ぬいあけてら年一うら



ちるのあひとかけ
 まあまのあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 いそつ子のたひまとうけ
 餅のあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 餅屋のてまとうけ
 せうりあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 ぬいあけてら年一うら



とらけ

ちるのあひとかけ
 まあまのあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 いそつ子のたひまとうけ
 餅のあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 餅屋のてまとうけ
 せうりあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 ぬいあけてら年一うら

ちるのあひとかけ
 まあまのあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 いそつ子のたひまとうけ
 餅のあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 餅屋のてまとうけ
 せうりあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 ぬいあけてら年一うら



ちるのあひとかけ
 まあまのあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 いそつ子のたひまとうけ
 餅のあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 餅屋のてまとうけ
 せうりあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 ぬいあけてら年一うら



ちるのあひとかけ
 まあまのあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 いそつ子のたひまとうけ
 餅のあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 餅屋のてまとうけ
 せうりあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 ぬいあけてら年一うら



ちるのあひとかけ
 まあまのあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 いそつ子のたひまとうけ
 餅のあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 餅屋のてまとうけ
 せうりあひとかけ
 ぬいあけてら年一うら
 ぬいあけてら年一うら



六

190 180 170 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190

名だののかたをたてつけ
あはれものたれとて
かへりたびがみる
るまゝのまのとうけ
かひひのいひ
かひまのいひ
かひまのいひ
かひまのいひ
あはれい川とかけ
利上り考あつて
かへりあはれもの



あはれい川とかけ
利上り考あつて
かへりあはれもの
あはれい川とかけ
利上り考あつて
かへりあはれもの
あはれい川とかけ
利上り考あつて
かへりあはれもの
あはれい川とかけ
利上り考あつて
かへりあはれもの



えんぢてんさう
天智天皇
あまのあ
かりやど
つるもの
つるもの
つるもの
つるもの



源宗干胡
あまのあ
かりやど
つるもの
つるもの
つるもの
つるもの



大納言経信
あまのあ
かりやど
つるもの
つるもの
つるもの
つるもの



壬生忠山
あまのあ
かりやど
つるもの
つるもの
つるもの
つるもの



あはれい川とかけ

七

8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1

あやねとゆけりまが
あつとまのいふ
いひのまのいひ
山の上のけんとあは
る合のあつたこと
いひあつてあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて



あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて

あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて



謙徳公

あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて



口のあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて

あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて



あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて



あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて
あつたあつとあつて



きつねのたとかけ
 おてこのののこ
 かい こんぶ
 こくきりとうけ
 かんきりくちこ
 かいやうふひうける
 いざりのきりうす
 きりぬづまこ
 かい たいまつ
 坂東三浦お舟と
 かわらう流と
 かい 坂東のころの



おてこのののこ
 二條院
 けいり
 人こそ
 たて
 糸



さねの
 前大僧
 さすてあく
 ちを
 ひ
 ふうかつ
 きんくと角



きつねのたとかけ
 おてこのののこ
 かい こんぶ
 こくきりとうけ
 かんきりくちこ
 かいやうふひうける
 いざりのきりうす
 きりぬづまこ
 かい たいまつ
 坂東三浦お舟と
 かわらう流と
 かい 坂東のころの



おんやのやま
 文彦康秀
 せんて秋
 りん
 へとひれ
 す
 せん



おんやのやま
 文彦康秀
 せんて秋
 りん
 へとひれ
 す
 せん



8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1

るれ川のまろとかけ
あや子げん台ととく
いハ あまよよとむ
まぶら仙安番とくけて
沢村ほろゆととく
いハ女がうれうがる



火のまのころとゆけて
さみのまのころと
いハあまよよとむ
日かから天おくととけ
あらのアをうけたんま
とくいハ中かかると

そねのうら
あね好忠
うらまのうら
たてるひのうら
まのうら
つと音たうま
まのうら



あまのうら
赤深右衛門
かううら
あまのうら
あまのうら
あまのうら

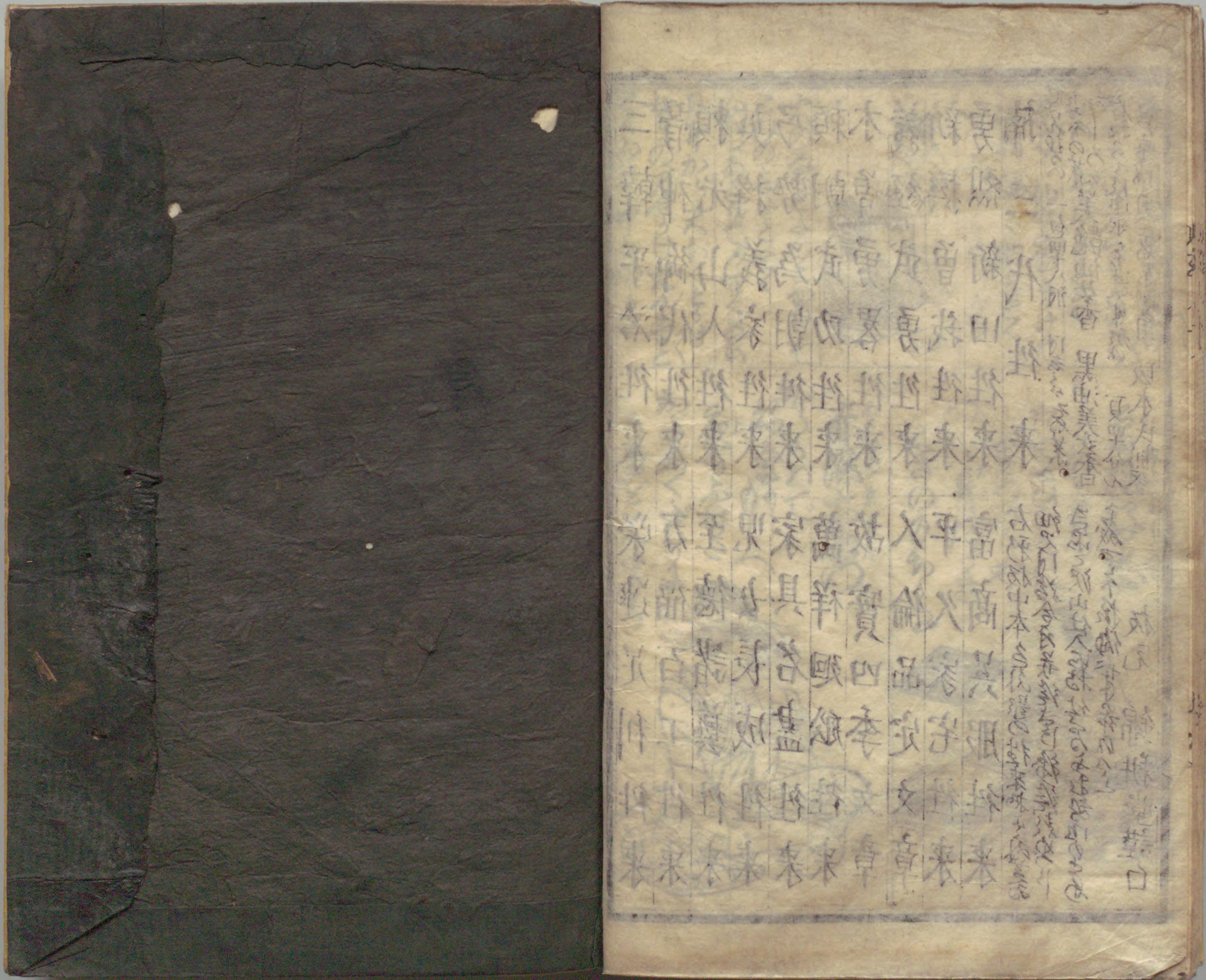
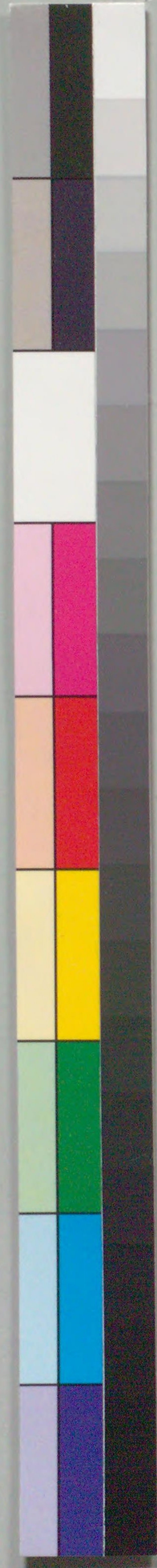


三 韓平治 往來
菅 神御代 往來
頼 光山人 往來
英 將義家 往來
弓 勢為朝 往來
頼 朝武功 往來
木 曾勇畧 往來
義 經武勇 往來
新 撰曾我 往來
勇 烈新田 往來
楠 三代 往來

栄 達足利 往來
万 福百工 往來
至 徳諸藝 往來
児 女長成 往來
家 具名畫 往來
萬 祥廻船 往來
故 實四季 文章
人 倫品定 文章
平 久家宅 往來
富 商呉服 往來

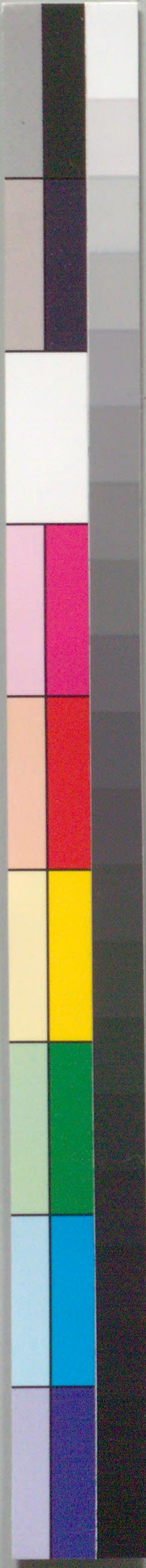
せんねの 一包甲八羽 同考ふその茶
あまの茶 美艶仙女香 黒油美女香
右ねの茶 美艶仙女香 黒油美女香
江戸京保真二茶 茶御角 坂本氏製

右彩板中本名外野の往來おとすの茶
細川月橋合月美経さき錦経おとすの茶
きよと沢山往入野村おとすの茶
あまの茶 美艶仙女香 黒油美女香
板元 錦耕堂謹白



207
1143





国立国会図書館 笑門春徳和歌 2巻 207-1143

ガラス使用